



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年08月26日 第1182号「週刊五十嵐レポート」

守成(しゅせい)

中国の古典に「貞観政要(じょうがんせいよう)」がある。これは唐(618~907年)の第二皇帝、太宗・李世民(りせいみん)とその臣下たちの言行録である。

「創業と守成はどちらが難しいか」という問答がある。国を興すという大事業とそれを受け継いで事業の基礎を固めることとは、どちらが大変かという問いを、太宗と臣下が語り合う。ある臣下は創業が難しと答え、ある臣下は守成が難しいと答える。太宗はどちらの意見も尊重した上で、今は守成の時期だから、守成に力を入れていこうと言った。

企業の創業時は、勢いに乗ってスタートダッシュする能力が必要。そして事業が軌道に乗り一定の目標を達成したら、走るスピードは持久走に切り替わる。この切り替えやかじ取りが難しい。

ある会社の話。当初数人で事業を営んでいたが、ここ数年で業容が拡大して社長含め従業員数は10名になった。このまま行くと売上は倍々に成長していくところだった。売上が伸びるにしたがって、内部体制が杜撰であることに気づいた。これは成長ではなく、ただの膨張である。売上が上がれば上がるほど、顧客からクレームが増えてきた。働くスタッフたちも疲弊してきた。各人が今までの経験で仕事をしていた。みんなバラバラだった。

業務の標準化が必要になってきた。だれでもわかるように業務のフローチャートを作成して、作業手順書を作る必要がある。ムダ・ムラをなくして、労働生産性を高めていく。そして今後の将来を見据えて「経営計画書」を作成し、従業員に会社の考えを浸透していく必要がでてきた。社長の意識が以前とは大きく変わった。中小企業から中堅企業を目指すべく脱皮しはじめた。

今期は、守備固め。あえて売上は追わない。社内体制、組織をしっかりと作る。それが出来てから、来期は大いに飛躍する。

「攻め」と「守り」を両方も得意な社長は少ない。営業が得意な社長は組織作りや財務が苦手。もの作りの得意な社長は営業が苦手など。

時代の変化や自社の置かれた状態等で社長の最優先課題が何か。今は「攻め」か「守り」か。

ちょっと
気になる出来事

8月25日付朝日新聞「働くなら日本より韓国？」という記事。

少子高齢化が進み、2040年には現役世代が今の8割に減る「8がけ社会」になる日本。深刻な働き手不足に悩むのは韓国も同じ。共に外国人の受け入れ拡大に踏み出し、人材の「争奪戦」が始まっている。「選ばれる国」になるのはどちらか？

合計特殊出生率：日本は1.2。韓国は0.72。

人口予測：日本、2022年1億2498万人、2070年8700万人。

韓国、2022年5167万人、2070年3718万人。

外国人労働者の人数：日本204.9万人。韓国92.3万人。(2023年)

外国人労働者の賃金：日本技能実習生21.7万円、特定技能23.5万円。

韓国28.5万円。(月額)

記事では、造船業界で、日本は時給1200円を提示したが、韓国は1700円。インドネシアの10人のうち5人は韓国へ流れたと。

日本は、金銭も大事だが、それ以外の日本、そして自社の良い所を提案する必要がある。ソフトの部分。その中に「日本語教育」もある。



一口メモ
知識

守成(しゅせい)と陰徳(いんとく)

永く貞(ただ)しきに利(よ)ろし。用六(ようりく)の永貞(えいてい)は大をもって終わるなり。

「創業」と「守成」を陰陽に割り振るならば、「創業」は陽で「守成」は陰となる。積極的に推進する「陽」の力だけでは物事を永く持続することはできない。繁栄を保つには柔順柔和に従い、受容する「陰」の力をリーダー自らが生み出す努力が必要。

「用六(ようりく)の永貞(えいてい)」とは、「陰」の徳を用いて永く正しく守り、大きな功績を成就すること。国や組織のリーダーは、特に陰徳を体得しなくてはいけない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

